

一 韓国研修での学生の学び

「飛行機の窓から日本の海岸線が見えたとき、初めて『日本』という国を感じた。一番心に残ったのは、教育博物館での申先生の話。これまで理屈では韓国の人たちにひどいことをしていたことは分かっていた。でも、実際に被害を受けた申先生に、日本語で話され、とても心が痛かった。」

今年の九月、研究室の学生と共に訪れた韓国大田市の五柳国民学校と教育博物館を訪問した夜、懇談会で出た女子学生の感想の一つである。

博物館を案内してくれたのが、五柳国民学校の申兵一校長先生。美しい日本語で、過去の歴史をふまえつつも、

21世紀の社会を見据えて —どんなフレームワークが必要か—

アジアの中の日本という
国家システム再創造への
課題に応える社会科学を

馬居 政幸

任を一方の政治主体にのみ求め、③結局は、経済成長とセットになった大学進学率上昇に成果を還元する教育に甘んじたものではなかったか。

この全てが崩壊した時代と社会が二一世紀の日本であり、その再構築が二一世紀社会科学の課題である。それも、アジア的システムに欧米的システムを取り込み、繁栄と矛盾を抱え込んだ東アジアの島国日本の問題として問わなければならない。ヒントは世界中にある。だが、問題解決の過程は自前で創造しなければならぬ。

四 既に始まっている

半島が統一されない限り、アジアの冷戦は終焉しないとされる。だが、

穏やかに、両国の未来創造への道を学生たちに語りかけてくれた。この申先生の真摯な語りに、彼女の目でなく同行した全ての学生が感動した。

私の研究室の学生である以上、当然社会科学専攻。彼ら彼女が、国を出て初めて日本人であることを自覚したわけである。それも心の痛みを伴って。

社会科学専攻の学生が、時間距離でわずか二時間隣の隣の国に訪問しただけで、心の痛みを伴って変えざるをえない社会認識と、それを教養で育てた小・中・高の社会科学とは何なのか。

二 アジアの中の日本

二一世紀社会科学のフレームの一つがグローバルな視点であることに異論はない。だが問題は世界ではなく日本。実際に、学生が国境を越えて知ったのは、自分が日本人であること。国の境が低くなるボーダレス時代とは、その字義に反して、国家の問題がより鮮

明に個々人に迫る時代を意味する。

「理屈では…分かっていった」とあるように、学生たちは、教わってはいないが、それを自己の生き方に問いなおすことはなかった。最も歴史を共有する隣国の人たちが日本に対し何を問いつ何を要求し、何を教え、何を学ぼうとしているか、ということに全くなりアリティをもたずに育ってきた。

問題は韓国のみではない。教科書問題をはじめそれなりの努力はしてきたが、それは自国内の教育政策への批判が背景。日本という国に生まれた子どもに、アジア諸国への関わりをどれだけ真摯に社会科学は教えてきたか。

三 冷戦崩壊の意味

戦後五十年の社会科学（教師）の歴史は、①世界システムとしての冷戦構造により、自国と世界との関係を問う困難さを避け、②国内政治システムとしての五五年体制により、問題解決の責

南北の統一とは、再び半島とそれに接する中国、ロシア、日本の間に新たな秩序形成に向けての戦略の対立の始まりを意味する。二一世紀に二〇世紀の歴史を繰り返してはならない。この二一世紀の日本の国家と社会を担うのが同行した学生たちであり、現在、小・中・高等学校で学ぶ者である。

この問題意識のもと八月にソウル大で開催されたシンポジウム「東アジアにおける『citizenship Education』の成立と展開」（韓国社会科学教育学会主催）で私が日本の社会科学の課題として提起したフレームを提示しておく。

- (1) 冷戦崩壊後のアジアの中の日本
- (2) 対する侵略責任の明確化
- (3) アジア各国とりわけ韓国と中国に
- (4) アジアにおける工業化・情報化に伴い生じる問題解決に対する共同研究の推進
- (5) 社会の高度情報化と国際化に対する積極的な対応

①メディア（コンピュータ）リテラシーの育成

②国内外における多文化自立・共生のための教育と地球的視野における環境問題への対処

(3) 少子・高齢社会を豊かに生きるため

①男女共同参画社会を前提とする男女平等教育

②ボランティアアマインド・技能の育成

(4) 生涯学習社会における新たな「市民性教育」の提示

①自己学習能力の育成と多様な学習機会・機関とのネットワーク化

②「公民（的資質）」に代わる新たな「市民（的資質）」の提示

（このフレームとシンボの詳細は「社会と教育」（韓国社会科学教育学会編）参照。また、韓国社会科学教育との比較を加えて「静岡大学教育学部研究報告・教科教育学篇27号」に掲載予定）
〈静岡大学教育学部教授〉

●21世紀に向けて—いま何を検討課題に据えるか
 新し、知の基本的枠組みの構成を「星村平和」「参加する社会科」の提唱「谷川彰英」「公民性」の再定義の必要とその方向性の吟味「奥住忠久」「教材の論理」から「認識の論理」へ「加藤寿朗」日本の子供から世界の子供へ「社会科教育の原点」高橋正顯

■21世紀の社会科を見据えて—どんなフレームワークが必要か
 「解答」を共に創出するフレームワークを……岩永 健司…二四
 社会の見方・考え方を育成する教科としての社会科の存続を……木村 博一…二六
 クロスカリキュラムの視点に立ちつて……山極 隆…二八
 民衆・民族の共存・連帯にこだわり続ける社会科教育の創造……阿部 貞夫…三〇
 アジアの中の日本という国家システム再創造への課題に込める社会科を……馬居 政幸…三三

21世紀に必要な「見守り教育」とは
 人類益、国益、地方益、個人利益のバランス感覚……西村 公孝…二四
 地球市民として……辻村 隆史…二七

21世紀に必要な「知識」とは
 「国」の語り方の再検討を……安藤 豊…三〇
 「使える知識」から「求める知識」へ……寺本 潔…三三

21世紀に必要な「能力」とは
 「共生と参加」の自己啓発能力の開発……金子 邦秀…三六
 記憶力重視から批判的、創造的思考の育成へ……安藤 輝次…三九

111が21世紀、111111は21世紀への私の提言
 ▼小学校の社会科「こころが困る、こうしては」
 学びの質が高まる体験・機器活用を……青柳 滋…四二
 望みたい「総合学習的発想」……温泉 敏…四五
 歴史学習の精選と再編を……梁澤 秀興…四八
 歴史学習を近現代史のみに……高橋 豊…五一
 子どもの学びの文脈を保障する方法・内容の改善を……小林 宏己…五四

▼中学校の社会科「こころが困る、こうしては」
 必要な「術」の明確化を……吉水 裕也…五七
 歴史学習の内容の再構成を……小池 公夫…六〇
 現代社会の問題を単元に反映させよう……城野 清忠…六三

シンポジウム
 提案 21世紀をめざす社会科プラン *文京発の提言……文京社会科を学ぶ会…五五
 意見 清水 一臣…五九

「社会科第二必要期」の新プランのみがきあい……片上 宗二…七六
 主体的な学習活動とグローバルな学習内容からの改善プランを……馬野 範雄…八二
 プランの内容を具体的に……六角 英彰…八四
 教師の「浪漫」と子どもの「事実」……勝又 明幸…八七
 社会科の根本的見直しを……栗波 昭文…九〇
 意見を読んで

新しい提案を一つでも多く新プランに具現化しよう……清水 一臣…九三

小特集 夏季集会以何が討議されたか……九六
 公民科・社会科教育全国協議会/社会科教育研究センター/社会科の初志をつらぬく
 会/全国高等学校公民科「倫理」現代社会/研究会/全国中学校地理教育研究会/全国
 地理教育研究会/全国民主主義教育研究会/全国歴史教育研究協議会/地理教育研究会/全国
 日本公民教育学会/日本生活教育連盟/歴史教育者協議会/連続セミナー/授業を創る

社会科授業につかえる児童書活用術—調べ学習に役立つ情報ガイド ⑧
 「生活・文化」にみられる人間の知恵」を追求 (1)……岩田 一彦…一九
 縄文人の生活 情報の保存と伝達」を事例として
 「近現代史」の授業改革 ⑩
 「南京事件」の真実とは (5)——数の問題(その3)……藤岡 信勝…二四
 社会科の授業を環る新しい動向 ⑧
 社会科において環境教育にどう取り組むか (2)……北 俊夫…三三
 中学校社会科のテスト問題の改革点—覚えては解けない問題?——つくり ⑧
 事実に知識と概念的知識を関連付けた作問例……蒔澤 文隆…三七
 関係意識の学習成果を踏まえて

わが教室の「社会科研究最前線」20—長崎大学の巻……有田 嘉伸・福田 正弘…三三
 わが県の情報「こころ」の授業あり 20—鹿児島県の巻……脇 正一…三四

研究会案内
 和歌山市立有功東小学校(愛)・大阪教育大学三福属小学校合同社会科研究会(愛)・静岡市立安東小
 校(愛)・九州小学校社会科研究協議会宮崎大会(宮)・全国社会科教育学会・浜松市立元城小学校(愛)

表紙写真「モニター」グラビア 社会科授業に使える「フォトクイズ」石田 聡/藤 お年玉ハガキ賞品で戦
 後史を構想する「藤本浩行」表3・4 授業に使える「消えたモノ」図鑑「ちよつとレトロ」の博物館「村上
 浩一」表3下 今月の教材単元一覧 目次写真「脇 正一」



木田 博氏の授業
 *135ページに紹介があります。